

お客様各位

NO88 2枚 平成19年9月29日

あとから気がつく「深慮遠謀」

2007.9月号

せたつくす

・de・元気

船上の 空で舞い咲く ツバメかな (キティホークにて)



税理士法人 SETACS 林卓也

TEL 03-3252-4558 FAX 03-3252-4508

メール [takuto@wave.plala.or.jp](mailto:takuto@wave.plala.or.jp)

ホームページ <http://www.diichikeiei-t21>

## 1. ソフトバンクの慧眼

ソフトバンクの携帯電話の売上が伸び続けているようです。

以前に、ソフトバンクがNTT防御網の厚い壁に阻まれ、新規電話事業参入をあきらめ、孫正義社長がボーダフォンを1兆7,500億円で買収すると発表したときは、みな驚き、「いくらなんでもそれはないだろう」と天を仰ぎ、「あーソフトバンクもついに終わりだな」とつぶやきました。

しかし、今から考えると買収のカラクリは「さすが」と唸らせられるものでありました。

その1兆7,500億円の金融機関からの借入れには、当然に担保が必要なのですが、その担保はなんとすべて「ボーダフォンの資産」なのですね。たとえ事業がだめになっても担保は「ボーダフォンの資産」なのだから、ソフトバンクも孫社長も痛くも痒くもないのです。

失敗すれば、まあ企業の信頼は地に落ちるでしょうが、財務的にはどうってことないのです。

言ってみれば、われわれ一般庶民が、家やマンションを買うときにその家やマンションを担保にお金を借ります。車を買うときもその車を担保にして、銀行やファイナンスがお金を貸してくれますが、それと同じ理屈なのです。

「あーこんなことなら、ボーダフォン買っとけば良かったなあ」なんて言っても、孫さんだから銀行もお金を貸してくれたのであって、どこをどう転んでも突っついて、銀行が私にこれだけの資金を貸してくれることはありえないでしょう。

私「ボーダフォン買うからお金貸してくれませんか」

銀行「何台分のお金が必要ですか」

私「何台分って言われてもなあ・・・まあ相当な台数であることは間違いないね」

銀行「事務所の皆さまで、お使いですか」

私「って言うか、ボーダフォンの本体が欲しいわけなんで・・・」

銀行「はっきりと台数をおっしゃっていただかないと、当方といたしましても」

私「だからボーダフォン本体を買いたいと・・・」

銀行「だから本体が何台必要なのですか」

と、まさにお話にならない、両者逆切れのような、会話が予測されます。

このままソフトバンクの携帯電話の勢いが止まらないのであれば、「その慧眼恐るべし」と歴史家が賛嘆し、「あの時銀行に掛け合ってみれば・・・」(まだ言うか)と、私も悲嘆することになるのでしょう。

## 2. キティホークにまたまた乗船

去年に引き続き、今年もまた世界最強艦隊である米軍第7艦隊の空母キティホークに乗船し、太平洋の海上から、米海軍戦闘機の航空パフォーマンスを見学するチャンスに恵まれました。

米第7艦隊は、空母キティホークを中心に、指揮艦ブルー・リッジなど50～60の艦船、350機の戦闘機を擁し、戦時となると6万人の海兵・水兵を動員し、本拠地を横須賀としています。

9月23日横須賀米軍基地ゲートを朝5時にくぐり、乗船すると、その約2時間後に東京駅と同じ大きさのキティホークは巨体をかすかに振るわせて、浦賀水道から太平洋へと進路を取ります。

去年と変わらずアーミー諸君は体が大きく（まあ当たり前か、縮むわけないし）、巨艦の振動に合わせて、巨尻を振るわせながら、自らの作業を、黙々とこなしていきます。

甲板上がると、緑のTシャツを着た船員たちがカタパルト（パチンコのゴムを引き伸ばして離すことで石を飛ばす要領で、戦闘機を空母から発進させること）の準備をしています。招待してくれたT氏を含む「飛行機オタク+カメラ小僧たち」が絶好の撮影ポイントを求めて動きます。

AM11:30、いよいよカタパルトが始まります。

上官クラスの黄色のTシャツを着た「Fly」グループの「Boss」がパイロットに手と身体で信号を送り、「Boss」の身体が下に沈み、両手を広げて飛行機の形になると、ものすごい勢いと地響きを残し、あっという間に戦闘機は海の上に浮かび、大空高く舞い上がっていきます。

その後続く高度な技術の航空ショーの迫力のあること。「絶対に勝てない、あまりにもすごすぎる」昨年に続き再び、強者の雄叫びに、複雑な思いを残しつつ、船を後にしたのでした。

## 3. カメラと脚立の関係

私をキティホークに案内してくれたT氏は、カメラと飛行機をこよなく愛しています。私のカメラも結構良いものなのですが、T氏のカメラとレンズは、その価格も大きさも数倍のプロの物です。

T氏は「ぼくは背が低いので、これが便利なんです」と言いながら、いつも脚立を持っています。

脚立に立ち上がり遠くから飛んでくる飛行機をいち早く見つけたり、群衆に囲まれたヘリコプターを外から写したり、疲れてきたらそれに座り、時には食事のためのテーブルにもなります。

日本のどこか、いや世界のどこかで、大きなカメラとリュックと脚立を背負いながら、空を見上げている人を見かけたら、それはきっとT氏です。その頭上には飛行機が飛んでいるはずですよ。

## 4. まずい船の食事

キティホークも戦闘機も圧倒的迫力で、「米軍恐るべし」の印象を否が応でも植え付けられますが、その船内で供せられる、食事のまずいこと。朝と昼に、普段米海軍の食べている食事がバイキング形式で出されるのですが、そのハンバーグ、サルサ、ホットドックなどのまずいこと。甘い砂糖がたくさんついたような様々なパンのまずいこと。変な揚げ物のまずいこと。

なぜこんなにまずいのか、理由 - 作業に集中するために、他に楽しみを与えない、作業に必要なカロリーのみ摂取できれば良い、長い航海なので冷凍ものしか積めない、巨尻を維持するためには必要、味覚がおかしい、実はまずくない、など考えられます。

その昔、英海軍を模した日本海軍が、英軍シチューをカレー味にし小麦粉を加えたことにより、カレーライスを発明した舌力と英知を思えば、米海軍も何とかするのではないかと嘆息するものであります。